

## 広島県建築設計者選定委員会三原旅客ターミナル審査部会議事要旨

次のとおり計3回開催した審査部会で審議を行い、重要港湾尾道糸崎港内港地区三原旅客ターミナル（仮称）新築工事に伴う基本設計及び実施設計委託の公募型建築プロポーザルにより、特定者及び次点者を特定しました。

### 1 特定結果

特定者	オクトパス設計共同体 代表構成員 一級建築士事務所平井政俊建築設計事務所 (東京都渋谷区猿樂町6-7 モンプレ代官山 1F-A) 構成員 一級建築事務所倉林貴彦建築設計事務所 (東京都杉並区桃井4-1-19-202)
次点者	株式会社AS 一級建築士事務所 (東京都港区南青山4-5-17 センガビル 2F)

### 2 講評

#### (1) 概要

三原内港は、昭和50年(1975)にほぼ現在の形に整備され、市中心部における海上交通の拠点として重要な役割を担ってきましたが、近年では、社会情勢の変化に伴う航路利用者の減少や港湾施設の老朽化、市中心部における港を活用したにぎわいの創出等の課題への対応、さらに直近では、観光振興に資する受入環境の充実が必要とされています。こうした状況を踏まえ、広島県と三原市が三原内港再生に向けた取組内容を取りまとめたアクションプランである「三原内港再生実施計画」を定め、施設整備を図ることとなっています。

このうち旅客ターミナルについては、施設の老朽化や再整備を求められている状況（必要な機能や空間の確保等）に対応するため建替を実施することとなっており、その設計者及び内港全体（パーク）のデザイン監修者の選定にあたって、技術力や創造力はもとより柔軟な発想力にも優れた設計者を選定するためにプロポーザル方式により実施しました。

評価テーマとして、①「にぎわいづくりに寄与し港が感じられる景観を形成する施設づくり」、②「港を訪れた誰もが港内の回遊ができ快適に安心して過ごせる施設づくり」、③「魅力的でありかつ合理的で実現性の高い施設づくり」の3つを設定し、旅客ターミナルという街と海を繋ぐ玄関口としての機能性はもとより、皆が瀬戸内の文化や暮らしの豊かさを感じ、憩い、集まり、出会うことのできる交流拠点となるような、この地域に期待される新しい港の姿を描く提案を求めました。

#### (2) 最終審査概要

最終審査では、技術提案書等に基づき、1者当たり発表10分・質疑応答15分の公開ヒアリングによる審査を行いました。

その後、事務局の設定した審議プロセスに沿って公平公正に審査部会を開催しました。最初に全審査委員がそれぞれの提案者に対する印象を述べ、3つのテーマに対する評価について一同の認識を共有し深めた上で委員毎に1位、2位の重み付けをした投票（計14票）を行った結果、B者、D者に絞って議論を深めることとなりました。その後、2者各々の優位性について慎重に議論した結果、全審査委員が審査部会の総意として、D者を特定者とし、B者を次点者としました。

### (3) 講評

今回の5者の提案について、それぞれのメリット・デメリットを考慮した上で全体としての評価を行うこととなりました。（※非特定者は公開ヒアリングの発表順）

特定者（D者）の提案は、投票で1位が3票、2位が3票の計6票を獲得しました。複数の小屋根を高低差をつけて配置し、一部の屋根は特徴的なねじれ形状とし、その下に必要な所室を配置する計画となっており、街に対して開かれ市民の日常使いがしやすそうであるといったことや、周辺の状況をよくリサーチしていることが分かる提案内容が高く評価されました。また、関係者（作り手と使い手）の意見を調整し、そこに学生等を巻き込み、港づくりを自分ごととする機運を醸成するといった提案もあり、若者が集まりつつある三原港周辺のにぎわいづくりへの寄与が期待されることなどから、今回のテーマについて最も理解度が高い設計案として評価されました。一方で限られた設計期間の中で、関係者の意見を整理し設計に反映できるのかが多少懸念されるという意見がありました。また、意匠的にシンボル性が少し弱いのではといった意見がありましたが、三原の街並みに馴染み市民が気軽に訪れることができる場所がかえって評価できるとされ、審査部会の総意として特定者の決定に至りました。

次点者（B者）の提案は、投票で1位が2票、2位が3票の計5票を獲得しました。瓦葺の大屋根の下に、必要な所室を配置する計画となっており、重厚感がありシンボル性も高い提案として評価されました。また、他の提案には見られなかった、瀬戸内の持っているゆったりとした情景や居心地の良さを上手く捉えた提案である点も評価されました。加えて、瓦葺の大屋根が三原の歴史を踏襲したデザインとしつつも、平面計画等は使用方法をしっかりと考慮した、現代的な計画となっていることもバランスのとれた提案として評価されました。一方で旅客ターミナルとパークの提案との連動性にもう少し配慮が欲しかったといった意見や、広大な面積を瓦で覆うことのコスト面、準備室を設けるという記載はあったものの、市民の意見等を反映することは難しいのではといった意見がありました。加えて、胸壁を抱き込んだ展望スペースの計画について、将来的なメンテナンス面での不安があるという意見があり、ヒアリングでもその懸念が払拭できなかったこと等から、投票後の議論の結果、次点に留まりました。

非特定者（A者）の提案は、投票で1位が1票、2位が1票の計2票を獲得しました。象徴性の強いダイナミックな立面形状を有し、屋根部分を含め内港全体に雁木形状を配置する計画となっており、その存在感の高さから、街側からも海側からも一目で旅客ターミナルが明確に認識できるシンボル性が評価されました。一方で象徴的な立面形状とした結果、その高さやボリューム感の必要性の説明がもう少し欲しかったという意見や、旅客ターミナルの平面計画にもう少し工夫が欲しかったといった意見がありました。また、旅客ターミナルの屋根や内港全体に配置される雁木形状について、十分に市民らに活用がされるのかといった意見があり、ヒアリングでもその懸念が払拭できなかったこと等から、投票後の議論の対象として残ることができませんでした。

非特定者（C者）の提案は、投票で票を獲得できませんでした。建物や内港全体を特徴的な階段形状を有し広く緑化する計画で、他の提案とは一線を画すインパクトのある計画として評価されました。また、環境シミュレーションを行い科学的に緑地の配置を決めているなど新しい技術を取り入れて意欲的に取り組まれているといった点についても評価されました。一方で全体を緑化した計画が、海や港を身近に感じ辛いのではないかとといったことや、まちづくりに関する説明として、どのようにこの計画を市民等と作り上げていくのかといった内容がもう少し欲しかったという意見もありました。また、屋上緑化や港全体に広がる緑地の状態を保つた

めの維持管理コストの不安について、ヒアリングでその懸念が払拭できなかつたこと等から、投票後の議論の対象として残ることができませんでした。

非特定者（E者）の提案は、投票で1位を1票獲得しました。低層のガラス張りで全体を統一的にデザインした計画で、開放感があり市民が気軽に訪れやすいといった点や、内港近郊の古くからにぎわってきたアーケード街をモチーフとして、旅客ターミナルの軸組スケールをアーケードから採用するというユニークなアイデアが、他の提案にはないものとして評価を受けました。一方でアーケードが三原市のモチーフとして適切なのかという疑問や、2.4mというスケールでは、柱やブレースが多くなることにより、十分な開放感が得づらいのではないかという意見や、事業者を呼び込みにぎわいを生み出すということについての実現性はどうかといった意見がありました。加えて、シンプルながらも構造の検討がシビアになる可能性についての懸念を払拭できなかつたこと等から、投票後の議論の対象として残ることができませんでした。

### 3 審議経過等

#### (1) 審議内容

##### ア 評価基準、評価要領の策定（第1回審査部会）

委員の互選により、貝島委員を部会長に選出の上、公示内容等について内容を審議し、①「にぎわいづくりに寄与し港が感じられる景観を形成する施設づくり」について、②「港を訪れた誰もが港内の回遊ができ快適に安心して過ごせる施設づくり」について、③「魅力的でありかつ合理的で実現性の高い施設づくり」についての3つの評価テーマを含め、評価基準及び評価要領等を策定

##### イ 技術提案書の提出者の選定（第2回審査部会（1次審査））

参加表明書等の提出者（92者）について、技術提案書の提出者を選定するための基準による評価を行い、5者を技術提案書の提出者として選定

##### ウ 技術提案書の特定（第3回審査部会（最終審査））

提出された技術提案書（5者）について、公開ヒアリングを実施した上で、技術提案書を特定するための基準による評価を行い、特定者及び次点者各1者を特定

#### [審議経過]

令和6年4月23日	第1回審査部会	評価基準、評価要領の策定
令和6年5月15日	公募型建築プロポーザル公示	
令和6年6月24日	参加表明書等の提出期限	92者提出
令和6年7月3日	第2回審査部会	技術提案書の提出者の選定（5者）
令和6年7月12日	技術提案書の提出要請	
令和6年8月28日	技術提案書の提出期限	5者提出
令和6年9月9日	第3回審査部会	公開ヒアリング（5者）、 技術提案書の特定

(2) 審査部会構成

[審査部会委員（順不同・敬称略）]

委員区分	氏名	役職等
部会長	貝島 桃代	スイス連邦工科大学チューリッヒ校 教授 アトリエ・ワン 共同主宰
委員	長濱 伸貴	神戸芸術工科大学 教授 株式会社E-DESIGN 代表取締役
委員	小野田 泰明	東北大学大学院 教授
委員	前田 圭介	近畿大学工学部 教授 株式会社UID 主宰
委員	山本 章博	三原市 建設部長
委員	新村 貴史	広島県土木建築局 空港港湾担当部長
委員	川島 満	広島県土木建築局 建築技術担当部長